

筑スポ 期待の新人特集 2014



男子バスケットボール部
杉浦 佑成選手

筑波大男子バスケットボール部に、文字通りの大型新人が現れた。身長1メートル94センチを誇る、杉浦佑成選手。体育1年、福岡・福岡大学付属大濠高。U-18の日本代表としても活躍した次世代のキースに、お話を伺った。

次に、筑波大を選んだ理由を伺うと、富山第二高校出身の、馬場選手の名前が挙がった。U-16のチームメイトで、高校時代に、「緒の大学に行こうと約束していたらしい。杉浦選手とともに、これからの筑波大バスケットボール部を引っ張っていく存在にならう。」

最後に、今後の目標を伺った。「チームとしては、もちろん日本になること。そして、個人としても、あまり限界を決めないタイプなので、いける」とうそまいてきた。

春季リーグで準優勝を取った筑波大学男子ハンドボール部。今大会1年生ながらほぼフル出場を果たした期待の新人、徳田新之介選手(体育1年、山口・岩国工業高)にお話を伺った。



男子ハンドボール部
徳田新之介選手

春季リーグは、ほぼフル出場を果たしたが、「1年とか関係なくチームのエースとして活躍したい」と思っていたが、シュートの確率の悪さやテクニカル不足を感じた。「筑波大学には評価をする。」「筑波大学には様々なスポーツの一流選手がいる。ハンドボールはマイナースポーツだから、自分たちが結果を残すことでハンドボールに注目してもらいたい。」と自分のことだけでなくハンドボール競技自体のことも考える。

取材の最後には、「いつも仕事をしてくれたり、自分の活躍を楽しみにしてくれている祖父母にとても感謝している。これからもっと活躍している姿を見せたい。」と話してくれた。

今年も体操部に期待の新人が入部してきた。昨年度のライト世界選手権にジュニア代表として出場した、渡辺理沙選手(体育1年、茨城・土浦第二高)だ。



体操部
渡辺 理沙選手

今年も体操部に期待の新人が入部してきた。昨年度のライト世界選手権にジュニア代表として出場した、渡辺理沙選手(体育1年、茨城・土浦第二高)だ。

高校に入った渡辺選手はライトを続けたが、周囲にライトをやる選手はほとんどおらず、大学の練習に参加したとき、渡辺選手は日本選手権の女子ジュニアを制して世界選手権への切符をつかむ。ただ、この時は世界の厚い壁に阻まれ、女子総合31位に終わり、悔しい思いをした。

筑波スポーツ

平成26年7月4日(金)
第158号

題字: 中山雅史氏
(元サッカー日本代表・蹴球部OB)

神保選手が陸上を始めたのは小学2年の時。もともと走ることが好きだった娘を母親が地域のクラブに連れて行ったのをきっかけに陸上を始めたという。当初は100メートルや1000メートルなど様々な距離に挑戦したそう。

中学でも陸上を続けた神保選手は最後の中学総体に200メートルで全国大会に出場するなど成績を残し、高校に進学。高校では400メートルを主戦場として、100、200メートルでも走り、1年の時からインターハイに出場。3年の時には冒頭の通り、200メートルで優勝、400メートルでも3位に入る好成績を残した。

そんな全国の舞台で活躍する神保選手が意識する選手は、ロンドン五輪にも日本代表として出場した大東文化大学の土井杏南選手。最後のインターハイでも100メートルで神保選手を抑えて優勝している実力者。「今はまだ及ばないが練習を重ねて追いつきたい」と神保選手は語る。また、最近200メートルで活躍を見ている岩手大の土橋智花選手にも負けたくないという神保選手。同世代にはこの二人だけでなく、多くの実力者が揃うが、神保選手も負けずにはいない。

そんな練習漬けの日々の彼女にとって、息抜きになるのは友人たちのおしゃべり。みんなで部屋に集まり、持ち寄った料理をつきつ、おしゃべりする時間が楽しいという普通の女子大生の一面も見せる。つい先日、関東インカレでもリレーなどに出場して女子団体総合優勝に貢献した神保選手。これからも更なる活躍を期待したい。

(鳥根崇志)



陸上部
神保 祐希選手

陸上競技部には、陸上を始めたのは小学2年の時。もともと走ることが好きだった娘を母親が地域のクラブに連れて行ったのをきっかけに陸上を始めたという。当初は100メートルや1000メートルなど様々な距離に挑戦したそう。

春季リーグ特集

女子弓道部

優勝

先日行われた、関東学生弓道選手権春季トーナメント大会。男子は予選通過後の一回戦で惜しくも敗れてしまったが、女子が見事優勝を果たした。今回はその大会について、女子主将の藤原楓選手(体育4年、岡山・倉敷天城高)にお話を伺った。

弓道の試合では、一人の選手が4本射ち、それを3人の選手で行う。つまり、チームとして計12本の的中に関して、その中で9本を切らないというのが目標だったそう。春季予選後には、非公式の練習試合も行われた。メンバーも春季トーナメントの本戦を意識したメンバーで戦い、チーム全体として調子はかなり良い状態で本戦に臨んだようだ。「結果としては予選後の3試合はすべて9本を切ってしまい、相手がこけてくれたおかげで優勝できた、という感じがある。私自身もそれほど調子が良くなかったのですが、後輩にも助けてもらった」と藤原選手は話した。ちなみにこの大会の個人戦では、2年生の今林選手が優勝している。この今林選手も、今回の団体優勝メンバーの一人だ。

次に、春季を通しての改善点を伺った。「冬の間に、一人ひとりの力はわりとついていたと思う。練習でもいい本番で出ない、意味がないので、今度はそれを試



(鈴木優輔)

女子ハンドボール部

優勝

4月から5月にかけて行われた関東学生ハンドボール連盟春季リーグ。筑波大学女子ハンドボール部が見事4季ぶり28回目の優勝を果たした。今回はこの大会で最優秀選手に輝いた水田亜莉沙選手(体育4年、大阪・四天王寺高校)にお話を伺った。

新チームになって初めての大会で最高の結果を残したわけだが、水田選手は意外にも課題点を多く口にした。

今年のチームのテーマは「ディフェンスからの速攻」。「そこがうまくいった試合は勝てたけど、悪いときに流れを断ち切

ることができず、そのまま試合終了までするずる行ってしまう。負けた次の日に気持ちを切り替えられなかったり、課題はまだ山積みだそう。

最終戦の週間前、5月10日と11日の試合で連敗してしまっていた。でもその時点で、意図とまだ2位の位置にいて、だからこれだけなのではないかという気持ちになりました。まだ望みはあるぞ、という雰囲気になって。リーグ戦は約1か月続くため、その間の個人個人のコンディション維持も難しく



たという。「2か月通した気持ちの持ち方も難しかったです。優勝はしたけど2敗してしまっただけで、正直運もあったと思う。います」とリーグ戦を振り返った。

最優秀選手賞についても伺った。

「個人賞といっても自分の力だけでできるものではない。みんなが繋いでくれたものを自分がシュートやゴールに結びつけた結果だと思っています。特に筑波はみんなが繋ぐスタイルなので、チームのことを考えてプレーした結果、自分を活かすことができたということだと考えています」と話してくれた。

チームとしての最終目標はインカレ。しかし、今は高い目標より目の前の一勝一敗に集中して、チームとして一歩ずつ成長していった結果がインカレに結びついている。

男子ハンドボール部

準優勝

4月の半ばから5月半ばにかけて行われた春季リーグ。様々な選手、チームが熱戦を繰り広げたが、今回は、1部リーグ準優勝を成し遂げた男子ハンドボール部の藤本監督にお話を伺った。

まずは結果について伺った。

「チームとしての力から考えると、2位というのは順当な結果だった」と話す藤本監督。優勝した早稲田大にも唯一星を挙げたが、明治大と日本体育大に敗れてしまい、7勝2敗で準優勝となった。

「明治大戦に関しては、チームとして落ちてしまったのが逆に良かった。シュートに対する守りが崩れてしまっただけで、大会優秀選手に選ばれた、4年生の加藤選手が奮闘した。加藤選手が奮闘した、という監督の言葉が、加藤選手の貢献度を物語った。

次に、これからどういったチーム作りをしていくかを伺った。

「秋は5週間、9試合を戦い抜く。過密日程になる。そのため、特定の個人に頼るのではなく、全員が様々な戦術のなかで噛み合い、個人の力もついでに勝てるように、チームの総合力で勝てるようにしていきたい。確かな技術、戦術を磨いて、確かなプレーをなくさなければならぬ。確かな言葉、言葉の裏返しにいたるべきだ。」と話してくれた。

今のチームは学年関係なく、バラスの取れたチームだそう。そんななかでも大きな動きをしたのが、大会優秀選手にも選ばれた、4年生の加藤選手。加藤選手が奮闘した、という監督の言葉が、加藤選手の貢献度を物語った。

秋の大会の目標は、もちろん優勝。「ただ普通に練習をしているだけでは成し遂げられないことなので、より先の部分まで貪欲に手を伸ばしていかなければならない。」

昨年の春季リーグは3位だった。昨年より順位を上げた筑波大ハンドボール部は、確実に進化している。栄冠を勝ち取る日も、そう遠くはなさそう。

(鈴木優輔)



梅雨が明け、夏がやってきました。今号は、新入生が入った初の号となります。もともと人数が少なかったこともあり、新歓にもそれほど力を入れることはできませんでしたが、それでも、2人の新入生が新しく入ってくれました。後輩ではあります。が、それ以上に、一つの新聞を作る仲間として、ともに頑張っていきたいと思っています。さて、今日日本中が熱狂しているサッカーW杯。これを書いているのは、まだグループリーグが行われていた、6月の半ばです。日本はグループリーグを通過できたのか、気になるところですね。日本を応援するのはもちろんですが、それ以外にも、海外の超一流の選手のプレーを見たりと、楽しみ方は様々です。スタジアムにいる大勢のサポーターを見ると、ファンの人がいてこそ、スポーツは成り立つのだと痛感します。ぜひ皆さんも、友人や家族と一緒に、一つのスポーツで盛り上がるみてはいかがでしょうか。

(鈴木優輔)

編集後記

発行所/筑波大学体育会
(TEL.029-853-2589)
発行人/吉澤 悟
編集/筑波スポーツ編集部
tsukusupo@hotmail.co.jp
責任者/鈴木優輔(編集長)



編集長
鈴木優輔(人文2年)
会計
藤原真梨子(社工2年)
広報
岩佐拓哉(工シス2年)
編集スタッフ
小峰朱理(人文4年)
三浦加奈(比文4年)
島根崇志(国際3年)
篠原美奈(比文1年)
猪本あかり(比文1年)

サークル特集

水泳部

水の中に入るのでおそろしく
番涼しく、この特集に合っ
ていであらう水泳部の村川諒
主将(体育4年・近江兄弟社
高・滋賀)に取材させていた
だいた。

水泳部は種目数が沢山あ
る。部員数が多い。まず、
その大所帯をまとめる苦労に
ついて聞いてみると、選手全
員に同じ意識の高さを保ち続
けてもらうのが難しいようだ。
「バレーによって選手をいくつ
かのグループに分けているが、目
標、照準としている大会が異
なってくるので特に集中しな
ければならない時期が異なっ
てしまう」と仰っていた。

種目によって練習内容が異
なるが、水泳部には必ず全員
統一して行う練習がある。グー
ルセットと呼ばれるもので、
毎週火曜日の午後15時50分
を3セット全てで泳ぐ。

太陽の日差しが強く照り付
け、いよいよ夏本番といった感
じだろうか。今回は暑い夏にび
つたりの水上スポーツ特集と題し
て、漕艇部さんの副主将であ
る越智寛太選手(体育3年、
愛媛・今治西高)にお話を伺っ
た。

個人メドレーの選手や800
m以上の長距離選手は150
m×6や50m×8になる。実戦
と距離が近い。このため、これら
のタイムが向上すると実際の競
技での記録に直結してくるの
でとても大事な練習のよう
だ。村川選手は「これはみん
なが声を出している。休感
が出て、部の雰囲気もよくな
る」とも言ってくれた。

村川選手は個人メドレーの
選手なので、個人メドレーの
練習内容についても伺った。
「泳法が変わると泳ぎの
リズムも全く変わるのでその
分体力の消耗が激しい。その
ため、長距離を泳いで持久力
をつけている」と答えてくれ
た。疲労を後半に残さないた
めにも、練習の中で効率のよ
い、疲れない泳法を見つけて
いくのが大事なのだそうだ。
水泳はもちろん水温が外気

イトトレーニングをしたりなど、
多岐に渡る。様々な練習方法
で切磋琢磨している選手がう
かがえた。

体育会の部活動ではあるが
それほど上下関係は厳しくな
く、二十人弱の部員たちが上
級生から下級生まで一緒に
いて、それぞれの技術に磨きを
かけている。未経験者もちろ
ろんいるが、経験者が教えてサ
ポートするなど互いに協力し
合っているようだ。練習や試合
後は、ご飯に、くつろぎあるよ
うで、部内の雰囲気は良さそ
うだ。



ヨット部

ヨット競技とは、おおよそ
5km四方に区切られた海上に
ブイでコースが仕切られてあ
り、そのコースを周回して順
位を競う競技である。体力
ももちろん必要であるが、そ
れ以上にチームワーク(ヨットの
調整や戦術の組み立て、風
の方向や強さを予測する能
力などが重要となる。そのた
め非常に頭を使う競技であ
ることから、「洋上のチェス」
と呼ばれる。

今回ヨット部主将の原田
瑞穂選手(地球4年・兵庫・
六甲高)に話を伺った。まず、
練習内容はヨットを出し
て練習して、主にできる
だけ速く進むためにブイを
最短距離で周る練習、またス
タート時に止まっている必要
があるのを止まる練習など
をしているようだ。ヨットに
乗らないときも、風の方向、強
さを察知し、さらにこれから
来る風の向を読み取る練
習をするということであつ
た。原田選手は「風を読むこ
とができる」とヨットの帆の
向き、進行方向を決めること
ができる。この練習はと
ても大事である」とも話して
くれた。



最後に、この水特集という
ことでヨットの涼しいところ
はどこか聞くと「風や水しぶ
きの影響でむしろ寒い。夏で
も日焼けした肌には水が飛ん
でくることで体温が奪われる
ので厚着して大会に挑む人
もいる」と苦笑していた。

体力と経験だけが全て
じゃない、頭脳と運も兼ね備
える者が勝つヨット競技。あ
なたもやってみてはいかが
だろうか。

（岩佐拓哉）

結果一覧

- 【女子ハンドボール】
関東学生ハンドボール連盟
春季リーグ戦(女子1部)
筑波大35-19 桐蔭横浜大
筑波大21-19 早稲田大
筑波大21-16 国士館大
筑波大29-19 日本女子体育大
筑波大24-18 東海大
筑波大22-19 東京女子体育大
筑波大17-22 日本体育大
筑波大19-25 東京女子体育大
筑波大26-23 東海大
筑波大24-13 日本体育大
最終結果 優勝
- 【男子ハンドボール】
関東学生ハンドボール連盟
春季リーグ戦(男子1部)
筑波大29-27 日本大
筑波大21-25 明治大
筑波大41-24 桐蔭横浜大
筑波大20-19 国士館大
筑波大36-30 法政大
筑波大34-27 中央大
筑波大32-33 日本体育大
筑波大26-23 早稲田大
筑波大33-22 東海大
最終結果 準優勝
- 【男子バスケットボール】
第49回日本体育大学 vs
筑波大学バスケットボール定期戦
本戦 筑波大85-76 日本体育大
1st 戦 筑波大75-64 日本体育大
関東大学バスケットボール選手権大会
5回戦 筑波大128-50 国学院大
6回戦 筑波大83-60 中央大
準々決勝 筑波大83-58 関東学院大
準決勝 筑波大77-70 青山学院大
決勝 筑波大67-82 東海大
最終結果 準優勝
- 【女子バスケットボール】
第49回日本体育大学 vs
筑波大学バスケットボール定期戦
本戦 筑波大61-48 日本体育大
1st 戦 筑波大84-47 日本体育大
関東大学バスケットボール選手権大会
2回戦 筑波大83-55 大東文化大
3回戦 筑波大57-58 東亜福祉大
最終結果 優勝
- 【男子サッカー】
関東大学サッカーリーグ戦
筑波大0-2 順天堂大
筑波大0-0 中央大
筑波大1-1 慶応義塾大
筑波大0-3 国士館大
筑波大0-1 慶応義塾大
筑波大1-3 桐蔭横浜大
筑波大3-4 駒澤大
筑波大1-3 明治大
筑波大0-2 専修大
筑波大0-1 早稲田大
筑波大1-0 流通経済大
最終結果 優勝
- 【女子サッカー】
関東大学サッカーリーグ戦
筑波大2-1 関東学院大
筑波大4-0 日テレ・メーナ
筑波大0-1 浦和レッズ
筑波大1-4 早稲田大
筑波大1-3 東京国際大
筑波大0-6 ジラキヤU18
最終結果 優勝
- 【男子バレーボール】
関東学生バレーボールリーグ戦
1回戦 筑波大54-0 立教大
2回戦 筑波大42-5 明治学院大
準決勝 筑波大21-17 大東文化大
決勝 筑波大21-17 流通経済大
総合結果 優勝
- 【男子バレーボール】
春季関東大学男子部
バレーボールリーグ戦
筑波大1-3 東海大
筑波大0-3 順天堂大
筑波大1-3 慶応義塾大
筑波大0-3 明治大
筑波大0-3 早稲田大
筑波大2-3 法政大
筑波大3-2 専修大
筑波大0-3 中央大
筑波大3-2 駒澤大
最終結果 第12位
入れ替え戦
筑波大3-2 宇都宮大
1部残留決定
- 【女子バレーボール】
春季関東大学女子部
バレーボールリーグ戦
筑波大2-3 日本体育大
筑波大3-0 日本女子体育大
筑波大3-2 宇都宮大
筑波大3-0 青山学院大
筑波大1-3 東海大
筑波大3-0 嘉悦大
筑波大3-1 日本体育大
筑波大0-3 東海大
筑波大3-1 宇都宮大
最終結果 第3位
- 【硬式野球】
春季日本大学野球リーグ戦
筑波大0-4 東京経済大
筑波大1-2 東京経済大
筑波大7-1 城西大
筑波大0-4 大東文化大
筑波大5-3 大東文化大
筑波大3-4 桜美林大
筑波大1-3 桜美林大
筑波大1-9 東海大
筑波大3-2 日本体育大
筑波大10-7 日本体育大
筑波大0-0 帝京大
筑波大6-2 帝京大
最終結果 第6位
- 【柔道】
関東学生柔道優勝大会
男子1部
決勝戦 筑波大4-1 山梨学院大
最終結果 優勝
決勝戦 筑波大2-0 山梨学院大
最終結果 優勝

春季 第38回 スポーツデー

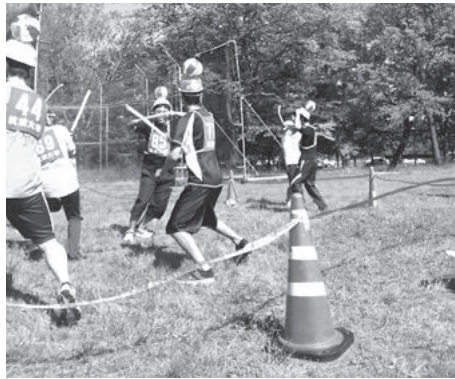
体験記

5月17日、5月18日の二日間、第38回春季スポーツデーが開催された。正式種目はソフトボール、バスケットボール、ソフトバレーボール、ドッジボール、ハンドボール、テニス、オリエンテーリングがあり、全種目合計の参加チーム数は381チームと多くの人が参加した。この中でも筆者がクラス全員で参加したオリエンテーリングについて紹介したい。

今回のオリエンテーリングは、一チーム最大5人で、女子の人数分得点が加算されるなど、どんな人でも楽しめるように工夫されていた。開始の合図と同時に全チームが地図を開きチェックポイントを確認する。チェックポイントにはそれぞれ点数が振られており、時間が許す限りチェックポイントを回って点数を稼ぐのだ。普段なら行かないであろう場所にも行き、大学内を探索できて楽しかった。オリエンテーリングをやる機会はなかなか無いと思うので、スポーツデーでオリエンテーリングを体験してみるのもよいと思う。

正式種目以外にも様々な競技が二日間に渡り行われた。筆者は、水合戦、城攻め、チャンバラに参加した。これらの種目は当日受付場所に行き参加パスポートのようなものを貰えば誰でも自由に参加できた。スポーツの得手不得手は関係なく、幼い頃に盛ったように楽しめる企画が盛りだくさんだった。また、同じ場所で体操部の体験会も行っていて、減多にできないライントに補助付きで乗ることができた。

運動が得意な人は正式種目で白熱した戦いができ、運動が苦手だけど楽しみたいという人は自由参加種目で童心に帰つたように楽しめる。そんなスポーツデーだった。秋季のスポーツデーも楽しみである。誰でも気軽に参加できるスポーツデーへの参加をお勧めする。(篠原美奈巳)



快晴となった6月14日土曜日、筑波大蹴球部のバレーアが行われた。リーグ戦10戦未勝利の厳しい状況を打破すべく初勝利をあげたい筑波大を応援するため多くの人が参加した。対戦相手はリーグ戦3勝2分5敗の流通経済大学で、天皇杯茨城県予選でもいすれ戦うであろう相手であった。

午前8時、集合場所には少年サッカーの元気な子供たち、学内外からの参加者が多く集まった。会場に向かうバスの中では蹴球部員の軽快なトークに笑いつつ、部員紹介ビデオが流され、試合前に蹴球部について知ることができた。会場に到着し参加者は筑波大の青いユニフォームに着替え、試合開始まで蹴球部員による応援練習が行われ、応援の準備を整えた。

午前11時30分試合開始のホイッスル。序盤から、若杉拓哉選手(体育3年、熊本・熊本県立大津高)からのパスでキャプテンの片岡爽選手(体育4年、兵庫・ウイッセル神戸)が右サイドから中へ攻め込むがゴールには繋がらず、相手の攻めには固い守りで対応し、両チーム得点のないまま試合は進んだ。その流れを変えたのはやはりキャプテンの片岡選手であった。試合開始から34分、デフエンスの空きを見つけてボールを運びシュート、キーパーに止められたがこぼれ球を押し込みゴール。筑波大に先制点が入り、1-0のまま前半は終了した。後半はスタートから互いに攻めの姿勢を見せた。流通経済大の左サイドからのヘディングの青いユニフォームの岩脇力哉選手(体育3年、三重・ジュビロ磐田U-18)がナイスセーブ、後半20分には中野嘉大選手(体育4年、鹿児島・佐賀東高校)が放ったシュートはわずかに右に逸れゴールポストに弾

蹴球

バスケット

VS 流通経済大

観戦記



第5回 リレーコラム

エシス2年の岩佐です。ようやく私もリレーコラムが書けるようになりました。今まであまり筑スポに貢献できてなかったのですが、今回記事を書くに当たってリレーコラムも担当させてもらい、やうと筑スポの員になれたと思えるようになりました。人数は少ないですがみなで協力してこれからは頑張りたいです。さて、自分の話はこれの辺にしておきましょう。地獄の春ABモジュールが終わって多くの人が半分夏休みみたいな状態になり、ラジールワールドカップも準々決勝・準決勝と佳境に入ってきましたね。決勝の対戦カードの予想はもう

次は筑スポ編集委員の篠原美奈巳さんです。